

令和4年度 吉川市立栄小学校 学校公開用

この学校評価は、学校の現状やこれまでの努力とその結果を公表し、家庭・地域にお知らせするとともに、今後の取り組みに向けて家庭・地域の理解や連携協力をお願いするものです。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての 評価の説明及び学校の考え	学校関係 者評価	評価に対する学校の説明・考察
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	A	学校教育目標を具現化し、実現するために各教職員が工夫して取り組んだ。中止されていた行事も工夫しながら少しずつ再開している。	A	様々な取り組みに努めているが、取り組みの内容や成果が目に見え、伝わりやすい形にしていこう。すべての教職員が目標に向かって同一に進めていく。
2	教職員はPDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	A	PDCAサイクルを繰り返し行い、教職員は日々努力をしている。情報共有をさらに深めていきたい。	A	PDCAサイクルは常に行っているが、どのような成果があって改善されていったのかを形にして表す工夫が必要である。
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	マニュアルを共有し、誰もが対応できるように整っている。いざという時のためにもこのような時はどんな対応が必要か日々研鑽しておく必要がある。	A	校長の指導のもと、事故やトラブルにおいては迅速に取り組む、対応を行っている。今後も素早い対応ができる体制を整えていく。
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	A	毎日の清掃活動を積極的に行い、美化に努めている。コロナ禍以降、清掃の仕方が統一されていないところがあり、今後改善をしていく必要がある。	A	コロナ禍ではあるが、きれいな学校を維持するため清掃活動には力を入れている。PTAの協力もいただき、トイレ、水回りの清掃活動に特に力を入れた。次年度も清掃活動にさらに、力を入れていく。
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	B	小中の教員が互いの授業を参観するなどの交流、夏の研修会での情報交換などを行っているが、児童・生徒間の交流等もっと計画的に進めていきたい。	B	小中一貫に取り組んではいるが、活動として目に見える形としては十分でない。小中の連携をさらに深め、小中の活動を多く取り入れていく。
6	教職員はPTA活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	A	PTA祭りなどPTA主催の行事や活動に積極的に協力することができた。今後もさらに連携を深めていく。	A	教職員はPTA活動や地域との連携に積極的に取り組んでいる。今後もその連携をさらに強め、互いに協力しあっていく。
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	A	教務主任を中心にホームページの更新を頻繁に行い、情報提供を行っている。また、学校だよりは地域にも配付し、回覧していただいている。	A	教務主任を中心に学校の様子、活動の様子などホームページにほぼ毎日掲載している。今後も積極的に情報提供していく。
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	A	見守りボランティアさん、りんごのしおり、おはなしからばこさんなど、地域の方々にお世話になっている。状況を考慮しつつ、今後少しずつ活動の幅を広げていきたい。	A	見守りボランティアの方々、自治会の区長さん、民生委員さんなど地域の方々との交流をもっている。今後、環境が許す限り、地域との交流をさらに深めていく。
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	A	児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。学習内容を進んで理解しようとしている。	A	教師は児童に話を聞くとときは目をみて聞くように話している。授業中は落ち着いて学習に取り組むことができる。
10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	A	児童の実態に合わせ、教職員が学力向上のためPDCAサイクルのもと、授業改善に進んで取り組んでいる。	A	教職員は目標を一つに同一歩調で授業改善に努めていく必要がある。様々な研修を行い、授業改善を進めていく。
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	A	教職員はICT活用についての研修を行い、様々な場面でICTを活用している。今後もさらなる活用法について学び、効果的に活用していく。	A	ICTを活用した教育が主流になっていく中、端末の活用の仕方、使用のルールなどをきちんと定め、大いに活用していく必要がある。
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	A	教職員は、学習のルール、学習の進め方について共通理解のもと指導に当たっている。	A	教職員は授業規律を徹底し、授業を行う必要がある。授業規律についてより一層の共通理解を行い、指導を行っていく。
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	B	自らあいさつをする児童年度当初に比べて多くなってきたが、まだまだ努力する点はある。ふさわしくない言葉遣いをする児童もいるが、道徳教育、学級経営を通して改善していく。	A	朝の登校時、校内などあいさつを進んでする児童は多い。今後もあいさつの大切さや正しい言葉遣いについて引き続き指導していく。
14	児童生徒は、学習のルールや生活の決まり・時間を守ることができる。	A	学習ルールやきまり・時間を守る児童が多い中、きまりや時間を守れない児童もいる。きまりや時間を守る必要性・重要性について引き続き指導をしていく。	A	児童は、学習のルールや時間を守ることができる。ルールや時間を守ることの大切さについて引き続き指導を行っていく。
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	A	道徳教育を通して、日々お互いを尊重するように指導している。今後も互いの良さや努力を認め合う活動を行っていく。	A	どのような事に対しても、即対応に取り組んでいる。いじめを絶対に許さないという雰囲気を作っている。お互いの良さや努力が認めあえるように帰りの会で「互いの良さ」について発表している。
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	A	教職員も自ら高い規範意識をもつ必要がある。児童に対して日々指導を行い、児童の規範意識をさらに高めていく。	A	教職員は自ら手本になるように児童に対して規範意識を高める指導を行わなければならない。児童のために、教職員は一体感をもち、指導を行っていく必要がある。
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	A	体力向上の研究委嘱をうけ、児童の体力向上に励んでいる。	A	児童は体育の学習に意欲をもって取り組んでいる。さらなる体力向上のため、教職員は指導法の工夫や指導内容の工夫に取り組まなければならない。今後も児童の体力向上に励んでいく。
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	A	栄養士の授業を行うなど、食育に積極的に取り組んでいる。	A	給食センターの栄養士を招き、栄養指導を全学年に行った。また、歯科衛生士を招き、虫歯予防のためのブラッシング指導も行った。児童の健康管理意識の向上は養護教諭中心に確実に行われている。
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切にし、児童生徒に寄り添った対応をしている。	A	教職員は児童一人ひとりの思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応に努めている。	A	一人一人の思いや願いを大切にするため、教職員は毎日の児童の様子を観察し、個別に寄り添った指導を行っている。今後もより一層児童に寄り添った指導を継続していく。
20	学校は、いじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	A	いじめや不登校をなくすため、児童生徒に寄り添い、情報の共有を図るなど指導の充実を図っている。	A	いじめや不登校をなくすため、児童に寄り添った指導、家庭との連携を常に図るなど指導の充実を図っている。いじめの根絶はもちろんのこと不登校ゼロにも取り組んでいく。